

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ア 今年度の活動の方針

- ・これまで以上の海外の高校生等との交流機会の設定。
- ・台湾との教育及び文化交流の実施。
- ・マレーシアへの教員及び生徒派遣に応募。

イ 月別活動実績

- 4月 ・台湾宜蘭県立復興中学校音楽班を招致し、400名の聴衆を集めた合同演奏会開催。
- 5月 ・ネパール、タイ、スリランカの留学生との合同調理体験交流会開催。
- 7月 ・CUC（千葉商科大学）サマープログラム参加。
・アメリカ、ポーランド等留学生との交流会開催。
・市川市ユネスコ協会主催「平和のメッセージ」作文応募。（応募作品約250通）
・近隣幼稚園に出前コンサート実施。
・近隣小学校へ生徒による学習支援ボランティア派遣。
・地域行事（夏祭）支援ボランティアとして、生徒及び留学生が参加。
- 8月 ・マレーシアに千葉県代表として、生徒4名、教員1名を派遣。
- 9月 ・アジア各国の留学生と熊本地震義援金募金活動実施。
- 10月 ・全校生徒対象グローバル教育・キャリア教育講演会開催。
・地域行事（秋祭）支援ボランティアとして、生徒及び留学生が参加。
- 11月 ・韓国、中国、台湾の留学生との語学研修交流会開催。
- 1月 ・「平和のメッセージ」審査発表。最優秀賞2名を含む受賞者多数。
・韓国教職員ホームビジット受入家庭多数。（12家庭）

ウ 今年度の成果

- ・計画立案から運営まで主体的に活動できる生徒の増加。
- ・様々な場でのプレゼンテーション能力の向上。
- ・12月時点での次年度計画の作成と、教員・生徒・保護者・関係団体による情報共有化の実現。
- ・国際交流の裾野の拡大を実感。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

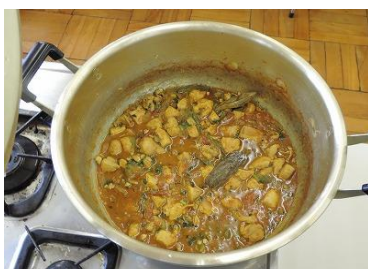
）

補完資料

1 5月の実践



本校ではユネスコ委員会を組織し、生徒が主体となって活動できる環境作りを行っている。今年度の取り組みのスタートとしては、5月に行われた調理体験交流会が本格的な交流活動となった。本交流会では、ユネスコ委員会を中心として、生徒たちが、日本語習得を目的に来日した「メロス言語学院」の学生とともに調理体験を通して、互いの文化を学び合い、異文化理解と交流を深めた。タイ・スリランカ・ネパールの食文化のプレゼン後、各国のカレーづくりに挑戦。生徒たちは、調理体験により、国際的な視野を持つことの大切さを改めて考える絶好の機会となった。



グリーンカレー（タイ）



チキンカレー（ネパール）



ダールカレー（スリランカ）

2 7月から8月の実践

メロス言語学院の学生たちもまた、日本文化に大変興味を持っていることから、本校からの企画提案「日本の祭り体験」をテーマに、ベトナム・スリランカ・中国・カザフスタン・インドネシアの学生10人が、市川市内の宮久保夏祭りに参加。「御輿・山車」巡行に加わり、日本の夏の風物イベントを体感した。



(山車を担ぐ留学生たちの様子)

また、地域連携では、夏休みに入り、近隣の市立百合台小学校の学習支援ボランティアを9日間行い、児童とともに学びの場を共有した。その初日には、18人の生徒が参加し、児童とのきずなを深めた。また、百合台幼稚園には、吹奏楽部が演奏に訪れ、園児や父兄に音楽のプレゼントを行った。これらは、「当てにされ、楽しみに待っている」といった地域に根ざした地道な活動が、市川昂への信頼に大きく寄与している。



(百合台小での学習支援ボランティアの様子)



夏休みには、地域連携だけでなく、国際交流の推進からカリフォルニア州ガーデナ市の青少年代表歓迎交流会と1000カ所ミニ集會が開催された。本校では、毎年夏休みに市川市の海外姉妹都市からのお客様（インドネシアのメダン市、中国の樂山市）を交互に迎え、交流を行っている。今年、ガーデナの高校生と市川市国際交流協会、市川市国際交流課の

方々のほか、メロス言語学院主催の日本語短期プログラム受講のポーランド・アメリカ・台湾・タイ・インドネシア・ウズベキスタンの学生も併せて本校を訪問した。交流会では、異文化理解講座（日本文化の紹介や折鶴体験等）として、英語による授業を生徒とともに受講した。講座の中では、留学生と生徒が隣合わせに座り、所々でお互いにわからない言葉を英語や日本語で教え合うという場面が見られた。また、合唱部の歓迎ミニコンサートや、吹奏楽部のパフォーマンス披露などで、親睦を深めた。参観した開かれた学校づくり委員からは、「昂の生徒たちの自信を持って発表し、とてもアットホームな交流だと感じました。」等の感想をいただいた。



3 10月の実践

地域貢献ボランティアの一環として、近隣の平川自治会秋祭りに参加した。宵宮の行事として、合唱部と吹奏楽部のコンサートが国分小学校体育館で行われた。合唱部の「ドレミの歌」など3曲の披露の後、吹奏楽部が「となりのトトロ」、「川の流れるように」、「津軽海峡冬景色」などのポピュラーソングを生歌とともに奏で、祭りに花を添えた。



各国留学生も国分小学校に合流し、昼食時、本校生徒とのコミュニケーションでリラックスするとともに、日本の祭りも体験した。翌日は朝からの雨2時間ほど待機、神輿と山車の出発は3時間遅れとなったが、この日も吹奏楽部、合唱部、柔道部の25名がボランティアとして参加した。小学生や子供たちと一緒に練り歩き、道々に元気な声が響き渡った。また下旬には、千葉商科大学人間社会学部の朝比奈



教授を講師に招き、全校生徒対象にキャリア教育講演会が開催された。講演会に先立ち、夏休みにマレーシアに派遣された生徒を代表し、生徒2名が成果報告を行った。その中で様々な国を訪れることで人との出会いがあり、価値観を共有できた喜びは大きな成果であることや、身近な出会いにも発見があることなどを改めて実感できたことが語られた。

4 今後のユネスコスクールとしての活動の見通し



以上が今年度のこれまでの活動であるが、今後もこれらの諸活動が、ユネスコ委員だけでなく、多くの生徒が積極的に参加し、ユネスコスクールとして活動の推進に努めるとともに、生徒たちの自主性の更なる伸長と協力精神の高揚を図るため、継続的な委員会会議の開催を行っている。ユネスコスクールとして、持続可能な取組については、さらなるアイデアを生徒から今年度のうちに募り、次年度に反映させること、計画的かつ継続的な取組にすることなど、生徒間の情報共有と企画運営等の参画意識も醸成されつつある。今後も、活動の計画、改善の見だし、全体へのフィードバックを継続し、市川昂らしい実り豊かな活動が展開されるよう努めたい。